

厚  
医  
部

# 衛生狀況報告

昭和三年三月五日  
第四十師團

0598

一將兵、精神状態

現在所屬一隊將兵ハ中國側命令ハ四月末迄ニ作業ヲ完成シ復  
 習シ得ルコト信シ之唯一、日常精神生活ハ隊長トシテ唯ニ光州ト  
 素心然カトシテ謀ヒテハ其役ニ勉勵スルコトナリ  
 吐散近キ至リ補ニ京燕ニ前其他作業ヲ謀ヒテハ其ノ風聞傳ヒ  
 又ハ將兵精神ハ前候ハ弱クナリハモテハ其ノ精神ハ其ノ人ニシテ  
 流言ハ休養ハ兵ノ動原トシテハ其ノ精神ハ其ノ人ニシテ  
 第一作業期日本側ニ至リ新ニ作業ヲ謀ヒテハ其ノ精神ハ其ノ人ニシテ  
 業ハ可論新作業ハ進捗ハ全ク望ミ得ルコトナリハモテハ其ノ精神ハ其ノ人ニシテ  
 令コト信ヒラハ至リ果ハ自暴自棄トナリ幹部亦之ノ加圧ニ得ナルニ  
 至ルヘシ將兵コトシテ安ニシテ現作業ヲシテ寧心セシハハ作業能率増  
 進上最モ緊要ニシテ作業ノ豫定計畫ハ變更ハ兵ノ心情ニ最モ  
 悪キ影響アリ又ホスセシハハ慎重ニ考慮セラレ度以テ作業ノ有終  
 美ヲ發揮セシメシコトナリ而望ミテ止マヌ

0599

三 作業隊宿營状況

本作業隊共宿舎極小テ狭隘ニシテ（一平方米一五〇ニシテ居住）且城  
 外作業隊ノ宿舎ハ大部ハテヤ草ナリコト降雨多ク昨今ハ雨  
 漏著シク約一〇五〇ノ使用不能ノ家屋ヲ生スルニ至リ且營繕  
 材料並ニ敷藁不足ノ多ク大部ハ直接土間ニテテヤ、麻袋敷  
 ヲ文字通兵員ハ互ニ折重リテ就寝ト安眠ハ殆ト不能ノ状況  
 ナリ三月ニ入リテヨリ氣候變劇著シク八日九日如キハ夜間氣  
 温零度以下ニ降下ニシテ室内空氣汚濁濕潤時ニ夜間寒  
 冷トシメ現在ハ殆ト全員輕度ノ感冒性疾患ニ罹患シテナリ  
 化門野戰病院於テハ輕症ノ患者ハ夜間多ク肺炎ヲ併發  
 スル状況ナリ感冒性疾患ニ其ク肺炎患者ノ發出多ク作業開始  
 以來三月五日迄ニ死亡ヒレ患者約四〇〇名調査スルニ大部ハ肺炎患  
 者ニシテ一割ノ肺炎併發患者ナリ

三 約 養 兵 狀 況

(昭谷典・京東)

0600



作業時間ハ七、五時間乃至八、六時間ナリ唯作業ノミニテモ既ニ三  
 ワロリー三、一ワロリーヲ要ス之ヲ作業以外、消費熱量(作業場  
 往復、作業器具運搬手入等)ヲ切算セハ最少限三、五ワロリーヲ  
 必要トス待ニ碎屑作業ハ重エ作業ニ相當シ之ニ從事シアル  
 兵員ニ於テハ消費熱量ハ四、二ワロリーヲ凌駕スル狀況ナレハ兵  
 員、不足熱量ハ、三ワロリー乃至二、ワロリーナリ各作業隊、  
 中ニ諸條件最モ良好ナリト思考セラルル等四作業隊、一部ニ  
 於テ最近体重測定ヲ實施セシニ勞役開始前、平均五四二斤  
 ナリニ現平均五二七斤ニシテ一人一ヶ月約一五斤減少ヲ示シ  
 アリ諸條件、更ニ不良ナル他、作業隊ニ於テハ減少、狀況推  
 測スルニ難キラス  
 又休養給與ニ對スル作業量、過重ニ性ヲ空腹感ハ前々モスレ  
 ハ精神状態心ヲ不良トシメ、物品、富、知等、犯罪發生、顧慮  
 極ク大ニシテ幹部、最モ苦慮シアル所ナリ

(相谷典・京米)

0602

兵員、健康ヲ保持シ、最後迄勞役ニ耐ユルヲ賦課セラルル作業執、當  
ニ相當スル最低給與(持ニ燃料)ノ確實ナル補給ヲ切望ス  
四、給水ノ狀況

第六作業隊第六大隊(下関)ニ於ケル給水量ハ兵員一ニロ名ナルニ  
一日約一ニロ名ニシテ換言スルハ一人一日一立ナリ(炊事洗面ノタメ、一人  
最低給水量一立)而モ同隊ハ曰下不潔極リキ下関地區ニ於テ  
連日市街清掃作業ニ從事シテ二月下旬以來現在ニ到ル迄洗  
面スラモナシ得ス湯茶ノ補給モ充分ナシ得ス漸ク炊爨食ニ得ル實情  
ナリ同隊、此第一作業隊本部(香林寺)第六作業隊第四大隊(新  
民)ニ於テモ夫々給水下足シテ作業開始以來再三水道増設  
ヲ懇請セシモ今ニ至ルマテ之ヲ設置ヲ見ルニ至ラス  
五、所産ノ狀況

昨秋持ニ下関地區ニ於ケルコレラノ獨廠ト本冬ニ於ケル比較的高溫  
トニ依リコレラ箇越冬ノ計算ハ極メテ大ニシテ溫暖期到來ト共ニコレラ

又ヒ其他經口傳染病ノ發生ハト異ニ憂慮ニ耐ハサルモノアリ蓋シ  
 燃料不足ニ伴フ湯茶ノ補給不足(一日二回炊爨ノ部隊ニ於テハ一日一  
 回ノ湯茶ノ補給可能ナルモ三回炊爨ノ部隊ニ在リテハ湯茶ヲ沸カ  
 能ハス)ニ因リ兵員ハ水道水ハ勿論甚シキハ「ククリク」水ヲ直ニ  
 飲用スルノ止ハキ狀況モ少カラズ氣温ノ上昇ニ伴ヒ生理的ニ水分  
 ノ要求増大ナルヲ豫想シ詢ニ憂慮ニ耐ハサルモノアリ  
 目下軍政部ヨリ衛生濾水機ノ借用ヲ願ヒルモ一部部品缺除  
 ノタメ之ヲ使用モ困難ヲ豫想セラル  
 (2) 燃料不足ニ因リ食器消毒ハ全ク實施シテモ食器ハ水道水  
 汚染ハ「ククリク」水ニテ洗滌シ其儘使用スルノ止ハキ狀況ナリ  
 (3) 手指消毒水容器不足セルタメ各作業隊(特ニ第五作業隊)ノ  
 浸漬シテハ奏准河ノ文字通尿尿汚物ノ堆積場ナリ)ハ不潔  
 ナル手指其儘ニテ食事スルノ止ハキ狀況ナリ最モ非衛生的ナル  
 環境ニ極端ニ圧縮痛當シラル作業隊ニ度亦刺サハラス

(船谷典・京東)

待ニシテ發生セシク爆發的流行ヲ來ストハ昨秋下關地區コ  
レヲ發生狀況ヲ見ルニ至ニシテ作業停止セルハ勿論中國ノ  
首都内外ニ病菌ニ散布スル結果トナリ中國則ニス其ノ重大ナル  
慘害ヲ及ボストハ明カナリ

之軍所變ニ關シテ諸對策ハ斷固ニ現狀ニ於テ最早打開ノ手  
段ヲ又一度流行スルモ之ヲ所遏スルノ方策ヲト無キ狀況ニシテ  
只々中國側ノ高配ヲ恃ミ他ナキ狀況ナリ  
又患者ノ狀況

作業隊患者發生數ハ逐次激増ノ傾向ニテ即チ作業開始前ハ  
四〇〇名内外ナリトシ現任ハ作業ニ出場シ得ル程度ノ患者ヲ除キ休  
業患者略一〇〇〇名ヲ算スルニ至レリ其ハモロモロマラリアノ感冒  
性疾患皮膚病ナリ  
マラリア

各作業隊共「マラリア」患者多發(患者總數約三〇%三〇〇余名)

0605



シテ且患者ハ殆ト作業量ト給養休養トノ不均衡ニ基  
 ヲ身体抵抗カノ低下ニ因ル再發患者ナリ又各作業隊ハ七五  
 %ノ作業出場人員ヲ捻出セシカタメニ或ハ發熱ヲ冒シ或ハ行察ノ  
 由途ニテ作業ニ出場スルハ余儀ナクセラレテ状態ニシテ温暖ノ候到  
 來シ蚊蚊ハ刺ヲ開始セハコト患者ハ今後數増ノ一踏ヲ越  
 々作業進捗上一大障礙ヲ形成スルハ想像ニ難カラス  
 ②感冒性疾患  
 宿舎ノ不備寢具敷藁不足(各人毛布平均〇・五〜一・〇枚)ニ因ル  
 夜間ノ寒冷ハ感冒性疾患(肺炎患者)ノ多ク發ヲ招來シ殆  
 トト作業隊兵員全員輕症感冒患者ニシテ重症患者ハ  
 九〇余名(總患者數ノ約一〇%)ニシテ最近ノ寒冷ニ依リ更  
 ニ増加シタルモト豫想セラル  
 ③皮膚病  
 入浴不能ニ基リ身体ノ不潔ハ皮膚病患者持ニ疥癬ノ多

(納谷典・京東)

0606

發疹促進に此種皮膚病好發時期に非ざる環境に既作  
業隊兵員人口の八五%疥癬患者に休業者も患者約  
三口余名の達あり總患者數約三口%且皮膚病原因  
スル皮下蜂窩織炎も相當數に達し作業現場人員減少一因ヲ  
ナシテ温暖候到來ト共救増スルハ明カナル環境改善ハ如何トモナ  
シ難シ

以發疹ヲナス及ヒ回歸熱

不潔環境に於て連日作業に従事スルニ拘ラス作業隊大  
部ハ作業開始以來現在至ル迄全入浴シテラヌ軍大作業  
隊一部ニテハ休日皆無シテラ爲ニ被服ヲ洗濯スルノ餘裕ナク  
兵員一部ハ南京到着時著用セシ被服儘起馬ニアル狀  
況ニシテ既ニ八口九口%虱ノ發生ヲ見アリ既ニ軍大作業  
隊ニ於テハ二月下旬ニ發疹ヲナスノ至回歸熱ハ疑患者發生ヨリ  
極端ナル壓縮宿營ヲ入行不能狀況依然繼續スルニ於

テハ虱ニヨル急性傳染病タル發疹ヲフスニ回歸熱ニ等燻發  
的流行ノ懼大ナルハ此等疾病ノ歴史ヲ觀察セハ明クナリ  
之又作業ノ停止ノ原因タルハク中國ノ首都ニ慘害ヲ波及  
スルコトアルヘキヲ懼ル

### ハ 夜盲症

肉類不足ニ基ク、ビタミンAノ不足ニ因リ各作業隊ニ既ニ  
夜盲症ヲ散發シ今後此種疾病ノ發生ハ増加ノ路ヲ  
辿ルモト思フセラル之ヲ對策ニ苦慮シアリ

### 七 結論

以上要約スルニ現勢ヲ攷リ續行完成センカクメニ衛生的見地  
ヨリ見テ最低限左記事項ヲ必然的ニ改善スル要アリ

### 左記

- 一、宿營 一人ニ平方米
- 二、水 一人一日一立

(船谷典・京東)

0608

三給 養食

中國側定量、三割増科ニ肉類(脂  
肪、蛋白質)増量

四薪

一人一日五斤

五手洗桶

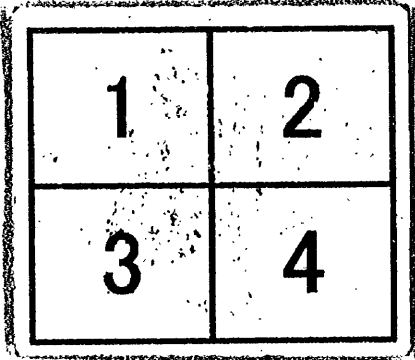
約一五〇箇(消毒水容器トシテ)

是ニ要スルニ作業隊、衛生狀況ハ目下極ニ不良ニシテ現在ハ尙  
 勞役ニ耐ヘアルモ兵員、健康狀況ハ日々低下、一踏ヲ越シツツアリ  
 近キ將來ニ於テ作業能率、著シク低下ヲ招來センコトヲ懼ル  
 科ニ危懼シアルハ各種急性傳染病好發時期ヲ眼前ニ控、衛  
 生環境、著シク不良ニシテ換言スルハ急性傳染病ニ對シ全ク  
 無所防護ノ狀況ニシテ而シテ一度發生スルモ之ヲ所遏スル手段亦策  
 全ク無ク自然ハ爆發的流行ヲ來レ作業領坐シ中國、首都ヲ以テ  
 傳染病ノ甘燂、タラシムル一事トス

吾人ハモトヨリ誠心誠意全能ヲ傾注シ課セラレタル作業ヲ完遂シ  
 中國側ノ期待ニ對シニコトヲ期ス

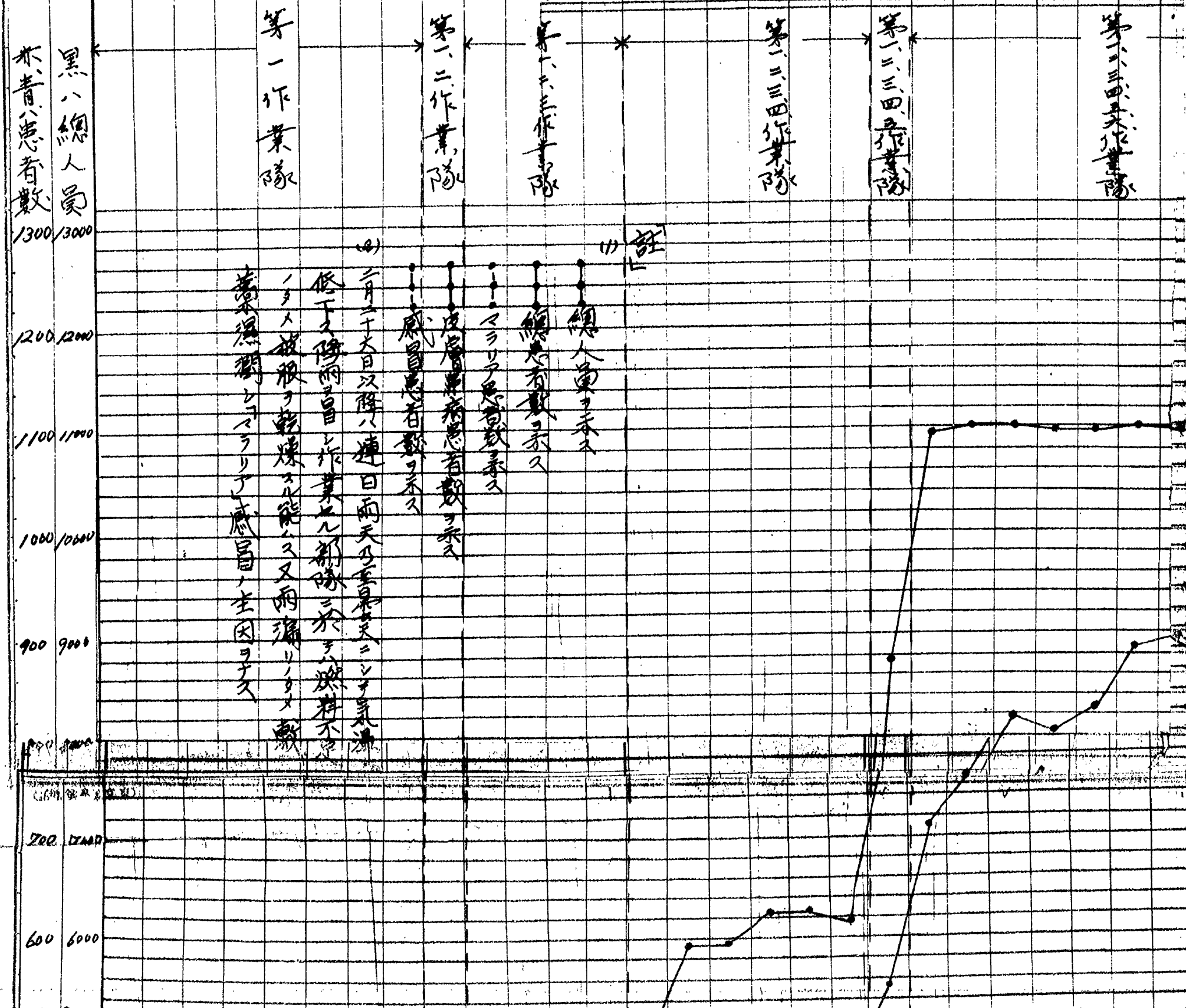


## 分割撮影ターゲット

分割した部分の撮影順序	
分割撮影した理由	A 3版以上のため
文書等名	第40師団作業隊患者発生状況曲線
上記のとおり分割撮影したことを証明する。	

0611  
0612  
0613  
0614

第十四師團作業隊忠發者生現況曲線



第十四師團作業隊者發生狀況曲線

第一作業隊

第二作業隊

第三作業隊

第四作業隊

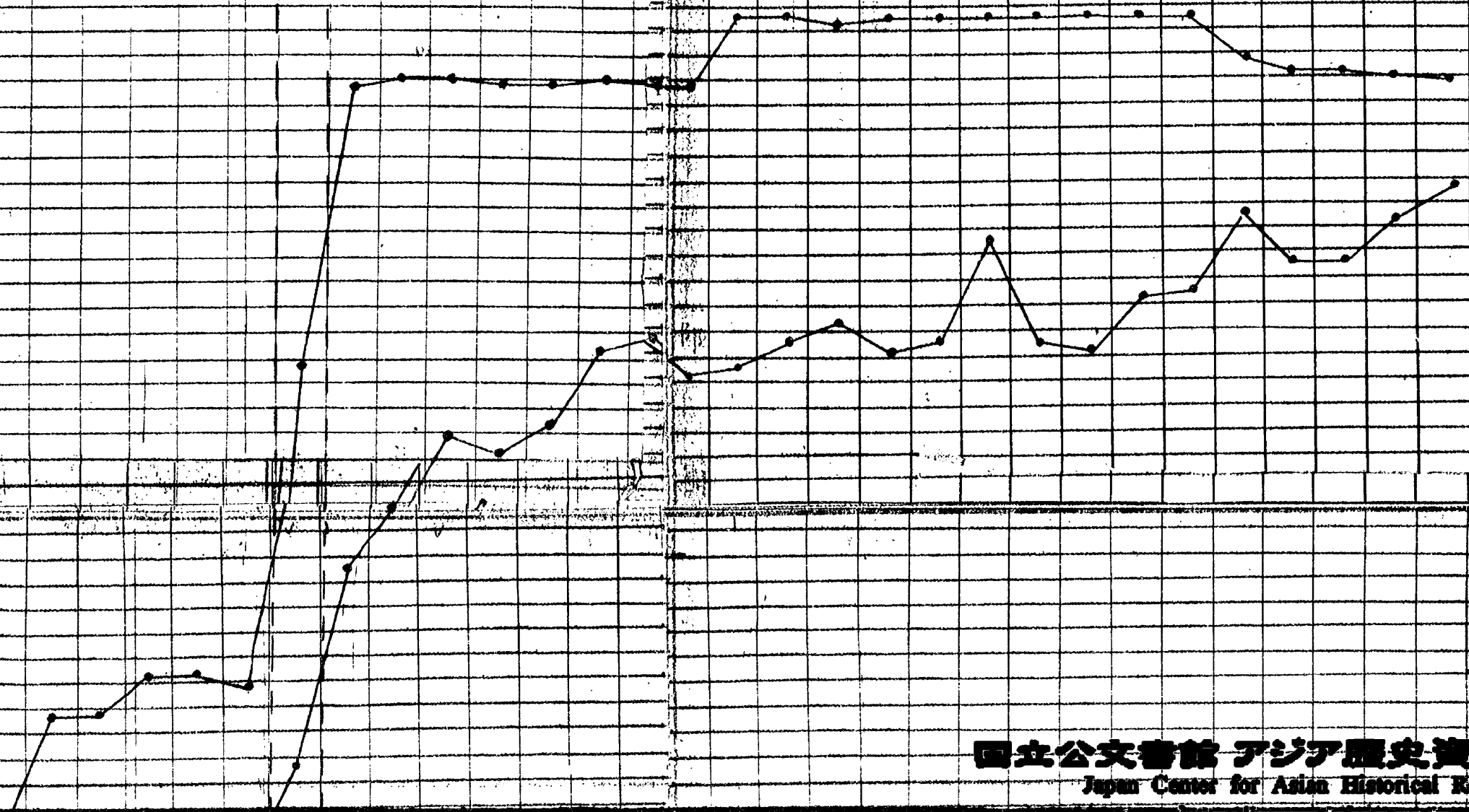
第五作業隊

第六作業隊

註

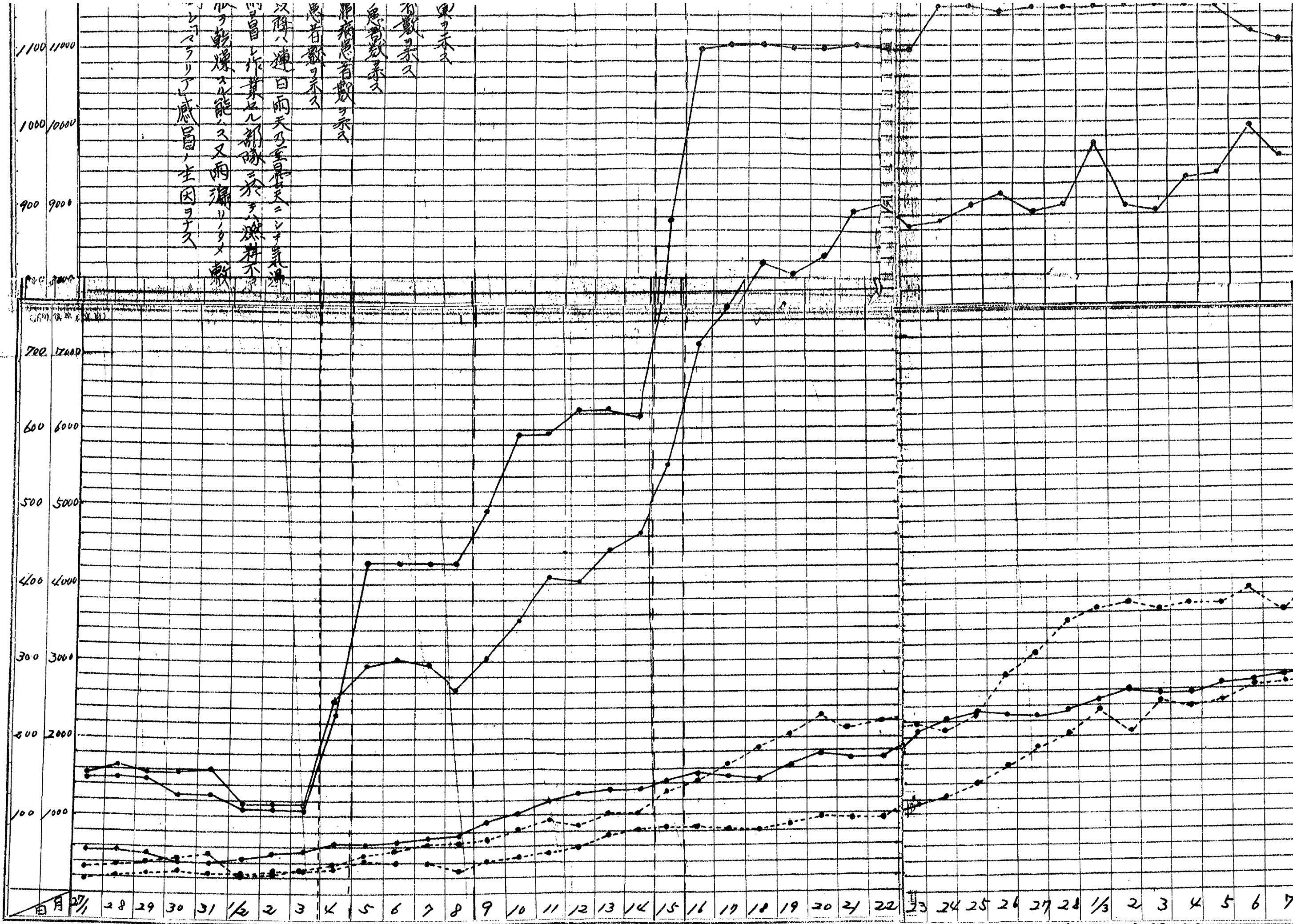
- 總人員數ヲ示ス
- 總患者數ヲ示ス
- マラリア患者數ヲ示ス
- 皮膚病患者數ヲ示ス
- 感冒患者數ヲ示ス

二月二十日以後ハ連日雨天ニ至リテニシテ氣温低下シ降雨多シ作業七九部隊ニ於テ燃料不足ノ人故服ヲ乾燥スル能ハス又雨漏リノタメ敷藁濕潤トシマラリア感冒ノ主因ヲナス



陸軍

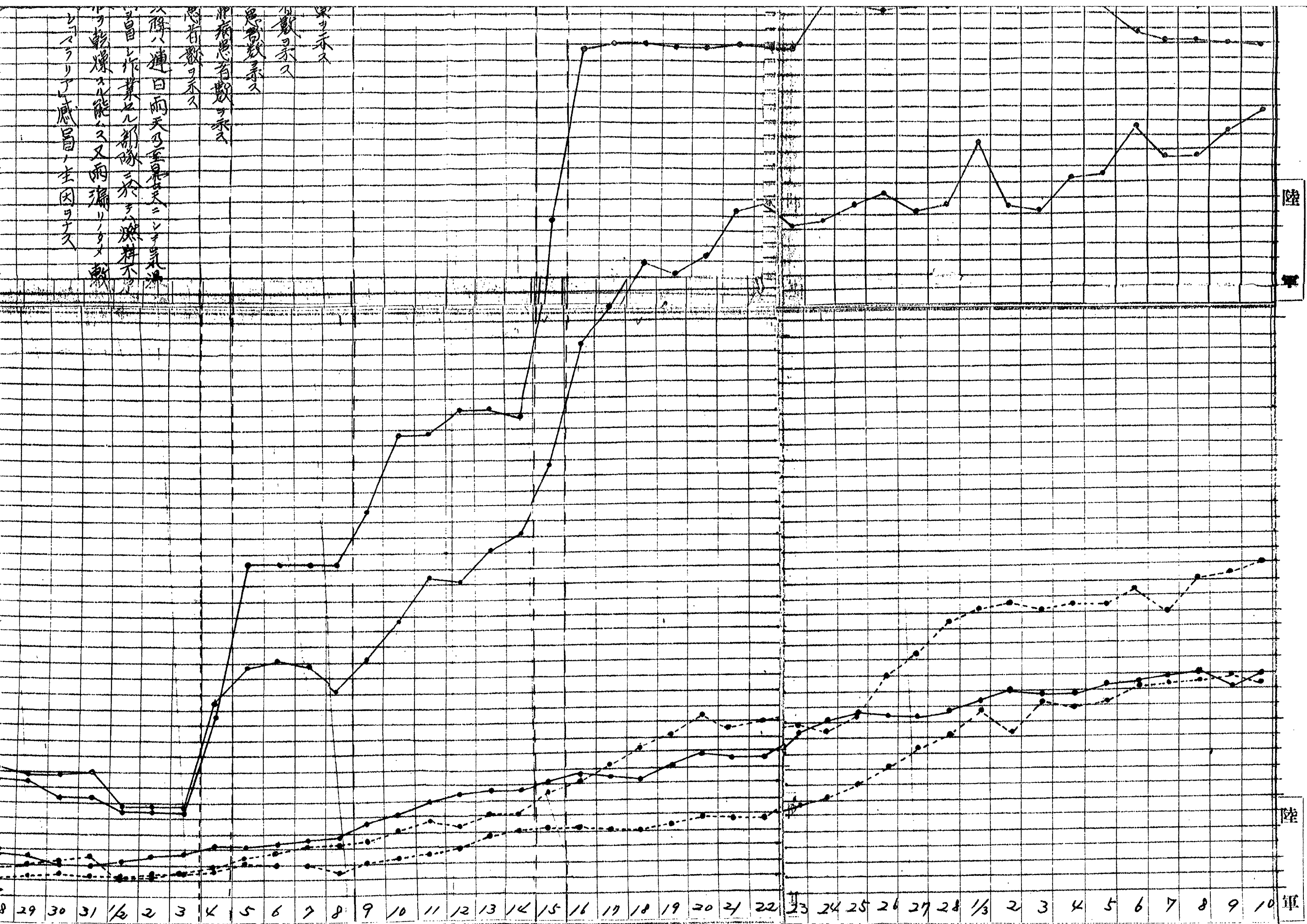




果ヨホス  
 不敷ヨホス  
 急増ヨホス  
 漸病急者敷ヨホス  
 急者敷ヨホス  
 以降ハ連日雨天乃至暴風ニシテ氣温  
 急降シテ其セル部隊ニ於テ燃料不  
 心ヲ乾燥スル能ハス又雨瀧リシメ敷  
 シヨリアア感冒ノ主因ヲナス

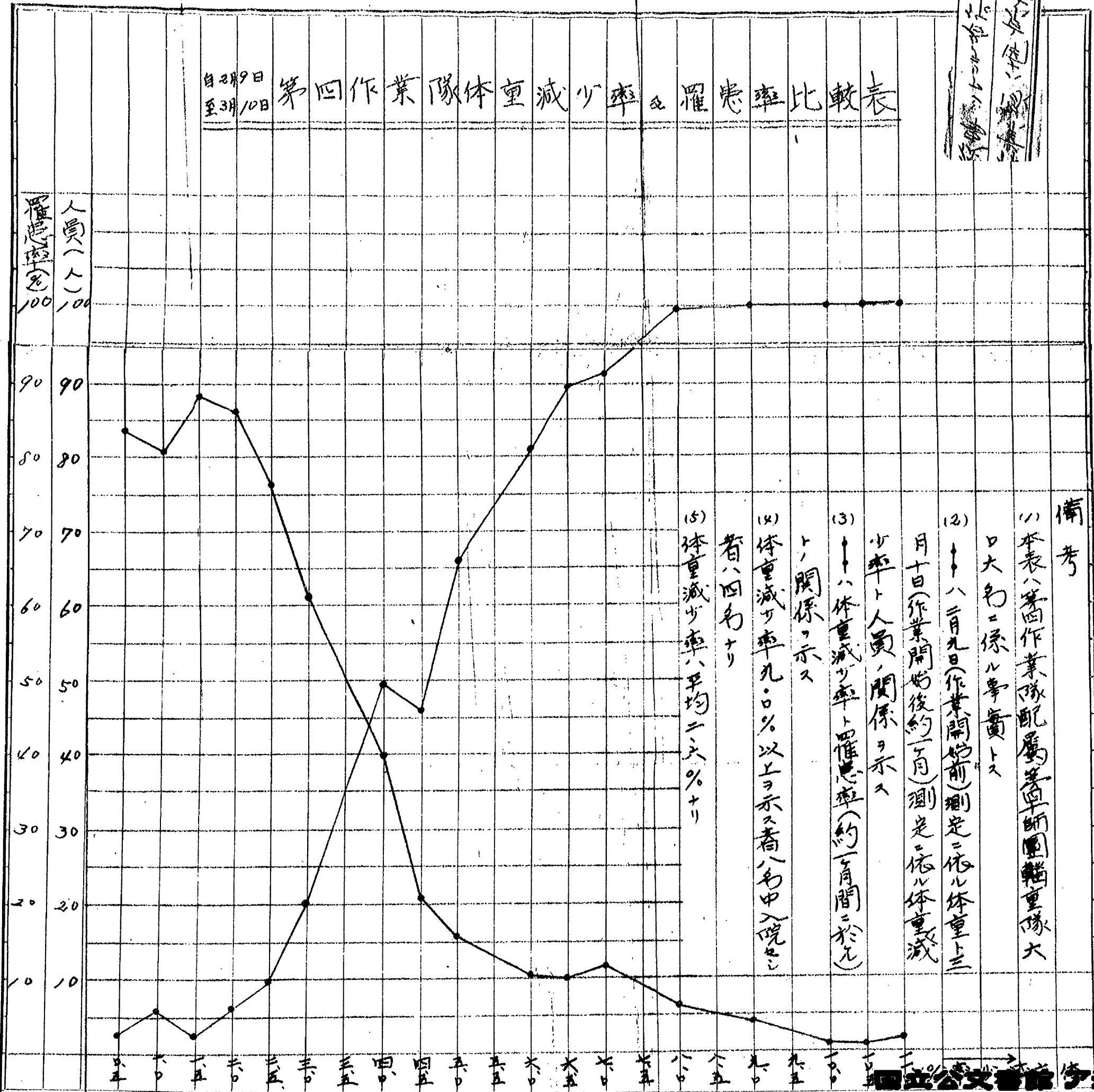
(註) 谷典・東京

果ヨホス  
 勿數ヨホス  
 患者數ヨホス  
 患病者數ヨホス  
 患者數ヨホス  
 八時ハ連日雨天乃至是迄ニシテ氣温  
 上昇シ作業セル部隊ニ於テ乾燥料不  
 少ク乾燥セル能ハス又兩端リノメ  
 シラリアニ感冒ノ生因ヲナス



自2月9日 至3月10日 第四作業隊体重減少率と罹患率比較表

陸軍  
衛生部  
第四作業隊  
衛生課



- 備考
- (1) 本表ハ第四作業隊配屬者中師團輜重隊大  
口大者ニ係ル事實トス
  - (2) 11月10日(作業開始前)測定ニ依ル体重上  
月十日(作業開始後約一月)測定ニ依ル体重減  
少率ト人員ノ関係ヲ示ス
  - (3) 11月10日(作業開始前)測定ニ依ル体重減  
少率ト人員ノ関係ヲ示ス
  - トノ関係ヲ示ス
  - (4) 体重減少率九〇%以上ヲ示ス者ハ名中ノ院ニ  
者ハ四名ナリ
  - (5) 体重減少率ハ平均ニ六%ナリ

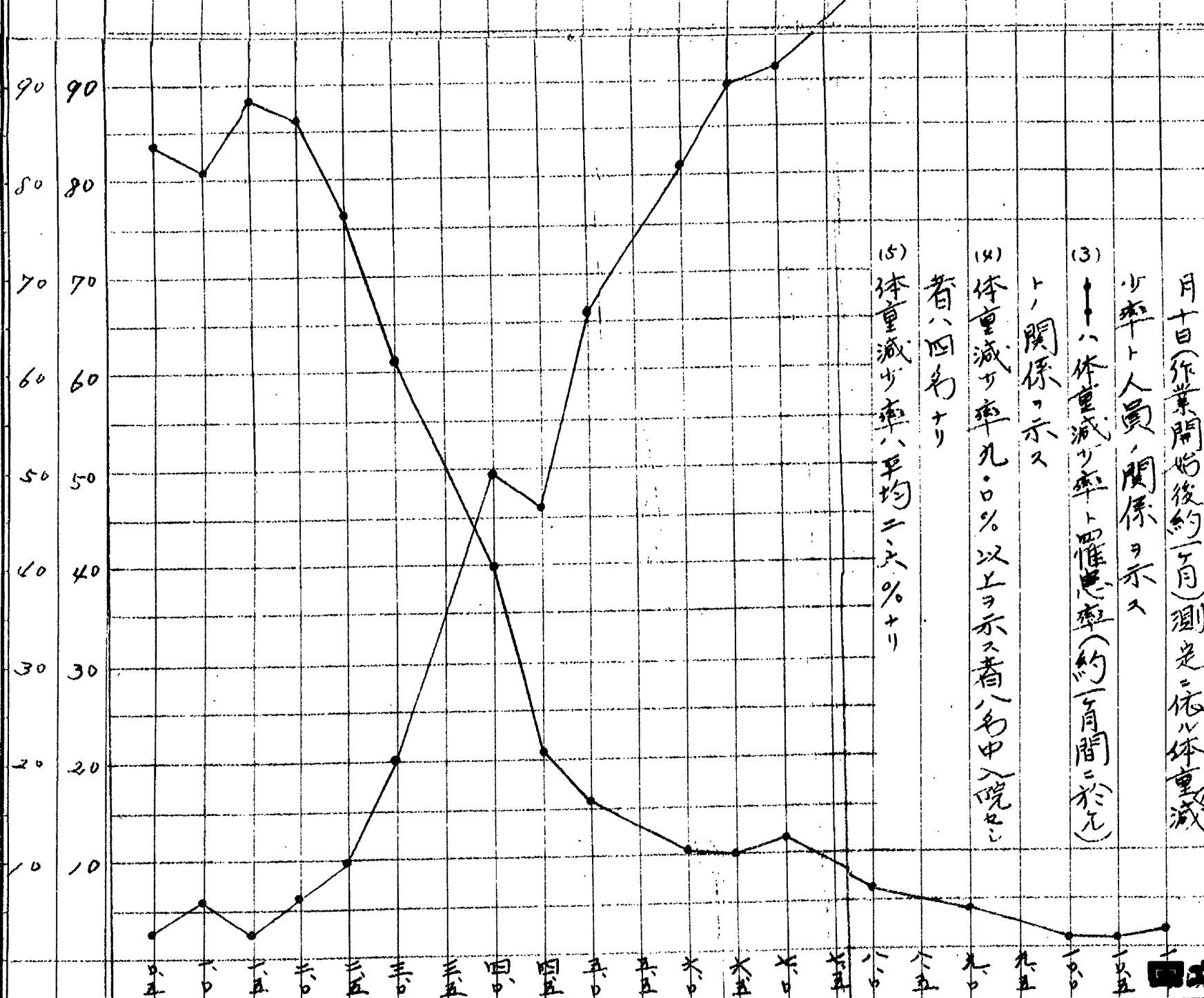
0615  
0616

(結谷典・東京)

自2月9日  
至3月10日

# 第四作業隊体重減少率及罹患率比較表

罹患率(%)  
人員(人)



第四作業隊ハ南京城内「漢中路」「莫愁路」「廣州路」ノ道路作  
業ニ従事シアリテ各作業隊中諸條件ノ最モ良好ナル作業ナリ

團輜重隊大

- (1) 二月九日(作業開始前)測定ニ依ル体重上三  
月十日(作業開始後約一月)測定ニ依ル体重減  
少率ト人員ノ関係ヲ示ス
- (2) 一ハ体重減少率ト罹患率(約一月間ニ於テ)  
トノ関係ヲ示ス
- (3) 体重減少率九・〇%以上ヲ示ス者ハ名中ノ院セシ  
者ハ四名ナリ
- (4) 体重減少率ハ平均ニ六%ナリ
- (5) 体重減少率ハ平均ニ六%ナリ

0615  
0616

(箱谷典・京東)

陸軍

日軍第四師團作業隊、衛生に關する私見別紙、  
送付スルニ付御高閱賜ハラバ幸甚ニ御座候

昭和二十一年三月二十二日

中國戰區日本官兵善後總聯絡部

軍醫部長 桃井中將

中國陸軍總司令部

衛生處處長 徐中將閣下

0617





一、燃料

燃料元記ノ通確海員ニ交付トルヲ可トス

炊事用

七〇〇瓦

湯用

一人一日當リ

三〇〇瓦

計、一、〇〇〇瓦

温浴用

三〇〇瓦

（一）定量ニ對スル不足理由

一、日本兵許容定量六六五瓦ニ對シ没領數三月一自三月

一日起至（日）平均一人一日當リ六〇〇瓦ニシテ且本數四里ハ

約四割、水分及泥工ヲ附着シテリ安實際量ハ平均四〇〇瓦

ナリ

又、物價高騰シテルニ東京採購組支給額増加ナキ為商人

ノ負擔増加シ要求量ヲ納入シ得ズ

（二）増加理由

一、日本官兵許容定量六六五瓦ニテハ漸リ一日三四ノ炊事

可能ナルを湯沸及入浴用燃料ハ入手ニ得ズ

以然ルニ現在ノ實受領數量四〇〇瓦ニシテ幸ヒテ炊事一日

ニ回分ノ所要量ヲ充足ニ得ルノミナリ

一般ノ各作業隊ノ作業往復時草根等ヲ拾得シ

概ネニ用、炊事ニ若干ノ湯茶ヲ給シアリ

3. 而シテ現在ノ作業状況ヨリ判断セバ一日ニ用、炊事ヲ

必要トシ別ニ湯沸用、傳染病特ニコレラノ豫防上ヨリ絶対ニ

必要ナリトシテ三〇〇瓦ノ燃料ヲ必要トス

尚入浴ハ南京到着一月ヲ五日ヨリ二月十日ノ間ニ完了

以テ今日ニ到ル迄且、大部ハ一回ニ實施シテ了スル

作業ノ性質上衛生的見地ヨリ最小限五日ニ一回ノ

入浴ヲ必要トシ一回一人當リ使用燃料一五斤即

一人一日當リ平均三〇〇瓦ヲ必要トス

(納谷典・京東)

0620



二宿舎施設

西花台宿舎（定員五十）及中華路宿舎（南京基督教青年會館）ハ他ニ移轉セシムルヲ又ハ八鐘型大幕（定員百人）七五組ノ交付ヲ可トシ其ノ他ノ部隊宿舎ハ補修材料トシテ差當リ蓋木ニテ啖及「アンペラ」兵ヲノ致又ハ之カ代金ヲ交付スルヲ可トス

理由

一中華路宿舎（第六作業隊ニ五ノ人）西花台宿舎（第五作業隊四ノ人）ハ修理ノ餘地ナリ雨天時ニ於ケル居住短ト不可能ナリ

一各作業隊共ニノ平方米ニ五人乃至六ノ人居住シテリテ少クトモ一人當リ三ノ平方米ノ占有面積ヲ與フル如ク新タニ宿舎（現作業場ニ近キアルベク給水ニ便ナル場所）ヲ配當スルヲ必要トス

四 各作業隊別宿舎程度區分及補修材料所要額

別紙ノ如ク

川宿舎ハ一級ニ療養寺院廟等ヲ利用シタル爲兩瀾リヤク

又軒下等ニ起居シテ側面ヨリ西露ヲ受ケテ至急

防雨用アベラレテ以テ補修スルヲ要ス

凶獲床ニ携帶天幕又ハ窓以テ下敷トシテテ蒸氣ヲ多ク

衛生上幾多ノ支障ヲ生ジタルヲ以テ敷葉ノ使用ヲ必要トス

三 副食ノ増給

首塔備用被褥ノ爲中口陸軍總司令部所定量ニ對シヤクトス

三 割増給タルカ可トス

理由

一 本年二月六日南京到着以降南京採購組ヨリ受領シタル

副食現品ハ定量ニ比シ甚ダリ不足シタルノミテス人遂次

(納谷 貞・京東)

0622

定量の減せられ、其の状況別紙に記す

四現行交付量、給共の継続スルニ於テハ、同モヤク、在在不足

采に依り種、依下り采ス、ミヤ入、里心者、激増の作業遂行

凡ヤル、更障の采ス、到ルヘシ

四重労働收斂、併し給與増加ニ関シテ、目下別紙ノ通

申請中

尚現行給與増加の實施部隊、對トル申請書並、認可

應、採念考慮、別紙、局、添付人

四輸送力

糧秣輸送、為、自働貨車、三、車輛並ニ所要ガ、增加交付

人ルヲ可トス

理由

一、現在糧秣輸送用貨車、三、車輛ニシテ、一、車輛ハ、常時

修理ヲ要シ結局便用ニ得ル車輛ハニ車輛ニ過ヤズ  
 (一)糧秣甲主食ハ主トシテ城外各倉庫敷テ所ニ於テ副食  
 新炭ハ漢中門外又ハ中軍門外ニ於テ受領シテリ  
 (二)一日ノ糧秣輸送ノ為ニ要ル輸送量ハ平均主食一〇屯  
 副食一〇屯燃料一〇屯計三〇屯ナリ而シテ輸送距離  
 平均往復域外ニ四料域内一四料域外平均一八料ニシテ  
 一日平均ニ回運行シテ車輛ニ七積載輸送スルモトシテ  
 七車輛ヲ要ス然レテ糧秣ノ三分ノ一ハ兵力及輜重車  
 ヲ以テ輸送スルモ尚五車輛ノ白勅貨車ヲ要シ現在  
 使用中ノモ、ニ車輛ヲ除キ更ニ三車輛ヲ必要トス  
 (三)現在<sup>糧秣</sup>輸送ニ要シテ各作業隊別人員別紙ノ如クシテ  
 作業能力ニ大ナル支障ヲ生ジルノミテ不實働勞紋人員員  
 減テニ半ヒ一人當賦課作業量増加シテ甚シク疲勞  
 甚日積ノ原因ヲイレマリ尚輸送力不足ノヲ往々受領

(納谷貞・京東)

陸軍

糧秣ノ全量ヲ禾稻部隊迄支給スルノ終ハ終興ノ不同  
滑ヲ采ニテル現況ナリ

作業隊別糧秣受領人員表

作業隊別	総延人員	糧秣受領延人員	割合
第一作業隊	二四、九九七	一、〇一一	四%
第二作業隊	二四、四三三	一、一四七	四、七%
第三作業隊	四六、九六三	三、四一一	七、三%
第四作業隊	一三、五八〇	五〇八	三、九%
第五作業隊	三四、六五七	一、七六七	五、一%
第六作業隊	三五、六四八	一、五二五	三、七%
計	一七九、九九七	九、一八九	五、一%

五、被服

備考

三月四日より三月十八日乃至三月十九日間、各隊  
総延人員並ニ糧秣受領人員トス

0625

作業用被服 足籠ノ通リ交付スルリ可トス	ゴム長靴 七〇組	軍靴 三〇〇組	口蓋用木綿 吾反 軍靴補修材料 三〇〇足介	作業用手袋 九七〇組	毛布 一回一〇〇枚	消毒用食洗鹽 三〇〇包	手拭 一三三〇八枚	入浴用石鹸 一三三〇八包	バリカン 三〇包	地下足袋 七〇〇〇組	靴下 二四七五六組	作業用履 一三三〇八組	算出基礎	一、被服及清掃用被服	一、ゴム長靴	被服整理並作業人員毎日平均 一四〇〇人	其ノ内泥中作業木毎日平均 七〇〇人	口蓋用木綿
------------------------	-------------	------------	--------------------------------	---------------	--------------	----------------	--------------	-----------------	-------------	---------------	--------------	----------------	------	------------	--------	------------------------	----------------------	-------

(納谷貞・京東)

0626

陸軍

保心人 浸漬(理)作業人員 毎日平均 3000人

清掃人員 毎日平均 600人 計 3600人

一反當" 40人分 所要量 90反

(一) 被服

品目	兵額	一人当所要量	所要量	現有量	差引不足量
毛布	13,388人	2個	26,776個	10,340個	16,436個
手袋	"	1組	13,388組	2,678組	10,710組
軍靴補修材料	"		要補修 四分一	0	3,000是分
地下足袋	"	1組	13,388組	5,578組	7,810組
作業底袴	"	2組	26,776組	13,388組	13,388組
靴下	"	3組	40,164組	13,388組	26,776組

軍靴補修材料内譯

半張章 300組  
 フォルス 鉄 300組  
 鉄 300組  
 洋釘 100組  
 踏踏帯 元0組  
 甲帯 肩 50組

0627

表紙番角八〇種 靴縫糸一七〇種

白消毒用平洗盤

浣淨清掃人員之出入之計。人員多し。因之必要量ニシテ

大作業隊本部一患者ヲ輸送用自動車一車輛ニ是非

配属スルヲ可トス

理由

一、師団本部隊ハ南京城内北東西南北約三〇ノ平方料ノ間、

分散配置ス之ヲ行シ患者ノ收療機関ハ伍長並ニ三牌樓ニ

小規模ノ収養室各一存スルニミルニ付、至五作業隊一長不

洋河ノ浣淨ニ從事シテ患者多ク發シテリ。一セキハ九料

以テ、患者ノ輸送ヲ待儀ナリセウレテリ。特々兩花台部隊ヨリ

三牌樓迄ハ裕ニ一料ノ患者ヲ輸送ヲ要スルニ付此等

諸隊ヨリ、急病患者ハ急治出稼突起莫脚炎等

(納谷貞・京東)

0628



輸送ハ事實上不能ニシテ既ニ同作業隊ニ於テハ二月五日輸送困難、為肺炎、依ルニ隊死亡患者ヲ出シテリ

作業ニ平ノ慮、外傷患者、輸送機関無キ為患患者一時

多發セシ場合衛生機関ハ輸送甚ク困難ナリ作業開始ヨリ

現在迄ニ発生セシ不慮外傷患者ハ十四名(十四名骨折)ニ達シ

今後亦此種発生ヲ予期セラル

三若隊ハ且取ル限、作業出場人員ヲ要求セラルルヲ以テ遠路患者

者ヲ輸送スル擔送人員ノ捻出ハ極ク困難ナリ

四作業隊本部ニ於テ自由ニ進行シ得ル自備貨車ハ目下ニ

車輛ニシテ運日糧杯壊ニ使用シテ予患患者輸送ノ余地

ナク甚ク用ニ供シ得ズ

四伍庄保養室ニ設備甚ダシク不良ニシテ降雨時ハ雨漏リ為

患患者ノ收療ニ適セズ患患者ヲ三牌樓(今後下関)へ後送

致シ度キ之ガ輸送機関トテ現況ナリ

七. 梶江門<sup>水</sup>第七作業隊が六大隊ニ水道ヲ設け通スルヲ可トス

理由

同隊ハ水道ノ施設ナリ目下附近ノ浦火栓ヨリ平均一日平均一三〇立

同隊ノ人員ハ一三〇立ノ付駐一人一日平均一五ノ割合ナリノ制限補

給<sup>ハ</sup>後ケアルノミニリ現況ニ於テ兵員一人一人ノ需水量ハ炊事

洗面等ノ為最<sup>モ</sup>小辰 一二立ヲ要トスルヲ給水紙洗前記ノ

如ク同隊ハ二月甲同作業開始以來今日ニ至ル迄殆ト洗面

スラニ為シ得ズル状況ナリ而シテ同隊ハ市街清掃作業ニ従事

シテハ為<sup>ル</sup>身体被<sup>レ</sup>晒<sup>レ</sup>汚染甚<sup>ク</sup>且<sup>ニ</sup>附近ノクワリ<sup>ノ</sup>汚濁水<sup>ニ</sup>由

テ使用<sup>ス</sup>ノ適<sup>ク</sup>ズ木道ノ設備<sup>ハ</sup>由<sup>レ</sup>テハ二月上旬以來南<sup>ニ</sup>

中田側<sup>ニ</sup>懇請セシメ未<sup>ダ</sup>實現<sup>ス</sup>ヲ見ル<sup>コト</sup>ナ<sup>ス</sup>

(納谷典・京東)

0630

別紙

蓄不難ツアノ下各部隊別所要量

部隊名	人員	宿舍	單位	單位 所要量	單價 (円)	金額	單位	所要量 (枚)	單價 (円)	金額
第一作業隊	10912	乙	解	4000	80元	320000元	枚	500	500元	250000元
"	10804	丙	"	5000	"	400000	"	700	"	350000
"	10575	乙甲 丙	"	6000	"	480000	"	880	"	440000
"	9222	丙	"	5000	"	380000	"	460	"	230000
"	10726	丙	"	10000	"	800000	"	1370	"	685000
"	10959	乙	"	5500	"	440000	"	680	"	340000
司令部	10666	乙	"	7000	"	560000	"	370	"	185000
計	10338			50000		3960000元		5000		2500000元

備考

1. 宿舍程度甲トハ密ル等イリ小修理ヲ要スルモノ

乙トハ家屋ニ兩編リアリ大修理ヲ要スルモノ

丙トハ兩編多ク且主トシテ斬下等ニ宿舎シアリ

陸軍

0631

大修理ヲ要スルト共ニ一部移轉ヲ要スルモノナリ

2. 單価ハ三月一日ノ市価ニ依ル

3. 所要量算出基礎ハ概算凡記ノ標準トス

名倉程度	兼一人當所要量	ア、コ、ノ一人當所要量
甲	一〇、八枚	〇、二枚
乙	三、〇枚	〇、三枚
丙	三、五枚	〇、五枚

(納谷貞・京東)

0632

別紙

總連涉第四〇六號

十月三十一日

田村元將

何應欽 鈞座

四、實施工作之地點

每實施工作之部隊因限定於集中地區內請勿派遣

至遠隔地帶為禱

五、關於給養方面對服重役者之食糧乞酌增加為禱

再者為了休息擬與其他部隊替換以平均勞工

之負擔

大、服役官兵等在工作期間請將已接收之作業用

被服折進予備用為禱

陸軍

0633

中國陸軍總司令部訓令

建  
中華民國三十四年十月三日  
於  
南  
京

據交通部前部長十月二十五日路財京代電內開

對日本在華鐵路部隊給養增加百分之三十其辦

法以一人一日之主食費百分之三十作為事務人員及

旅行雜費以一人一月之副食費百分之三十作為一級

雜費由交通部直接交附指定日軍集甲地

區之最近機關交付

由各部隊長從速通知所屬部隊向各指定機

關領取

0634

別紙

中國陸軍總司令部訓令

軍神字第八五號  
民國三四年一月一日

第四項以騰工作地免之不固定所謂集中營地區  
之事自不能認可

但事實上與集中地區並無遠隔第五第六兩項  
由各受降主官看之權限處理

陸軍

0635

事由 呈為申請增加給養由

中切四師團自擔任南京地區補修道路工作以來因工程困難  
時間較長兵員身軀疲勞日增其勞苦情形有如徵用  
於鐵道關係之官兵一樣因此請求鈞長能否按照十月  
十六日中國陸軍總司令部軍補第九號所開鐵道  
部隊得增加給養之三成而本師團增加給養量  
實為德便仰祈  
鑒核賜不謹呈

南京市工務局日本徒平官兵服役工程處

主任 戴 根法 鈞座

日軍第四十師團長 宮川清 呈

中華民國三十五年三月二十二日

0636





向 3月11日 至 3月20日 延入費 119,199 円

向 3月25日 至 3月20日 延入費 521,152 円

上表 公斤 換算表

品目	11月1日以降	3月11日 至 3月20日	3月20日迄		2月6日 — 3月20日				3月20日 以降
	補給定量	補給定量	一日平均 補給定量	一日平均 消費量	所要量	反領数	差引不足 定量	不足 割合%	予定補 給定量
野菜	500g	312.2g	406.25g	380g	260.876g	183.1205	117.7551g	29	250g
猪肉	62.5g	31.25g	46.875g	28.437g	33.2341kg <del>12.766kg</del>	12.766kg	20.4685kg	61	27.0625g
味噌	62.5g	62.5g	62.5g	48.75g	33.2341kg	16.146kg	17.0885kg	51	0
醤油	31.25g	31.25g	31.25g	24.375g	16.161kg	9.810kg	6.351kg	41	0
食油	9.375g	9.375g	9.375g	2.61g	4.892kg	1.420kg	3.472kg	71	0
薪	665.65g	665.625g	665.625g	610g	206.965kg	219.534kg	12.568kg	36	625g

0638



昭和  
一三  
三  
小津  
島

0640